

めぐみイエス・キリスト教会

2022年6月19日(日)第三主日礼拝
週報「通算第613号」



2022年標題聖句

第 I テモテへの手紙御6章17節～19節

《高慢にならず、頼りにならない富にではなく、むしろ、私たちにすべての物を豊かに与えて楽しませて下さる神に望みを置き、善を行ない、立派な行ないに富み、惜しみなく施し、喜んで分け与え、来たるべき世において立派な土台となるものを自分自身のために蓄え、まことのいのちを得るように命じなさい。》

第一礼拝(教会にて) 毎週日曜日 午前10時～11時

第二礼拝※中止

聖書の学びと祈り会 毎週水曜日 午後6時～(各家庭にて)

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌416「聖霊来たれり」 p. 668

【交読文】 No.20 詩篇第57篇(抜粋) p. 894

【賛美Ⅱ】 新聖歌16「いざやもろともに」 p. 20

【使徒信条】

【主の祈り】

【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナル曲No.5「聖霊の風」

【聖書朗読】 使徒の働き17章10節～15節(新約p. 270)

【礼拝説教】 《ベレアそしてアテネへ》

【聖餐式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

※本日の聖書箇所(使徒の働き17章10節～15節)

17:10 兄弟たちはすぐ、夜のうちにパウロとシラスをベレアに送り出した。そこに着くと、二人はユダヤ人の会堂に入って行った。

17:11 この町のユダヤ人は、テサロニケにいる者たちよりも素直で、非常に熱心にみ言葉を受け入れ、はたしてそのとおりがどうか、毎日聖書を調べた。

17:12 それで彼らのうちの多くの人たちが信じた。また、ギリシアの貴婦人たち、そして男たちも少なからず信じた。

17:13 ところが、テサロニケのユダヤ人たちが、ベレアでもパウロによって神の言葉が伝えられていることを知り、そこにもやって来て、群衆を扇動して騒ぎを起こした。

17:14 そこで兄弟たちは、すぐにパウロを送り出して海岸まで行かせたが、シラスとテモテはベレアにとどまった。

17:15 パウロを案内した人たちは、彼をアテネまで連れて行った。そして、できるだけ早く彼の所に来るようにという、シラスとテモテに対する指示を受けて、その人たちは帰途についた。

●ポイント1.「ベレア」とは？

■ **ベレヤ(ベレア)** マケドニアのエマティア地方にあったかなり古い町。ヴェルミオス山のふもと、アストラエウス川の岸に位置する。ローマ時代には比較的繁栄した町で、ユダヤ人居住者も少なくなかった。パウロは第2回伝道旅行の時、テサロニケから南西に約80キロ進んでベレヤに到着し、ユダヤ人会堂で説教した。この地のユダヤ人は誠実であり、かつ熱心に聖書を学んでいた。第3回伝道旅行の時にもパウロは訪問した。この地の出身者であるソパテロはパウロに同行した。

●ポイント2.「アテネ」とは？

■ **アテネ** 古代ギリシャのアッティカ地方の首都で、町の名はその守護神アテナに由来する。標高157mの丘陵アクロポリスを中心に発達したアテネは、古代民主制を確立した最初の都市国家である。紀元前462年に、旧体制の中心であったアレオパゴス会議の政治権力が奪取され、市民総会である民会が最高議決機関、評議会が立法の予備審議機関、民衆裁判所が司法の最高機関として、ここに古代民主制が完成した。紀元前443年～429年、ペリクレスが将軍として統治していた時代がアテネの全盛期であり、パルテノン神殿が建設されたり、哲学者ソクラテス、歴史家ヘロドトス、多くの劇作家や著名な文化人が活躍するなど、まさにギリシャ古典文化の黄金時代を築いた。新約時代は、ローマ帝国の属州都市となり、この頃、経済的な繁栄はコリントやアレキサンドリヤに移ったが、アテネは文化的には、エピクロス派やストア派の哲学を初め、演劇や建築等の方面でも、さらに新しい発展がなされていた。

●ポイント3.「毎日聖書を調べた」こととは？

※ルカの福音書24章44節～48節「ヨハネ・マルコの家にて」(新約p.174)

◎先週の礼拝メッセージの概要【テサロニケのヤソン】

《テサロニケは、マケドニアのテルマ湾北端に位置する港町で、紀元前315年頃マケドニアの王カサンドロスが近隣の26町村の住民を集めて新しい都市を創設し、妻テサロニカにちなんでテサロニケと命名しました。紀元前146年には、ローマに属するマケドニア州の首都になりました。

パウロとシラスは、「三回の安息日」にわたって、会堂に集った人たちと論じ合ったとあります。おそらく最初の安息日に、会堂管理人であったと思われる同胞のユダヤ人ヤソンが、主イエスを信じたのではないのでしょうか。そして、ヤソンは、パウロとシラスを自分の家に招き入れます。

後にパウロはローマ書において、『私の同労者ヤソン』と書いており、ヤソンはテサロニケを出てパウロと行動を共にした事が分かっています。

さて、テサロニケの正当的ユダヤ人は、パウロとシラスを捕らえようとしたが見つからず、それゆえヤソンと他の兄弟たちをテサロニケの役人に引き渡します。役人たちは、『ヤソンと他の者たちから保証金を取ったうえで釈放した』と書かれていることから、ヤソンは決して身分の低い者ではなく、ローマ市民であった可能性は非常に高いと思われます。

ユダヤ人たちは役人に、『イエスという別の王がいる』と言う理由で、ヤソンたちを訴えました。確かにローマ帝国の王は、カエザルだけです。

しかし、エルサレムにおいて、主イエスの裁判が行なわれた時のことです。ローマ総督ポンテオ・ピラトが、主イエスに質問したことがありました。「あなたは王なのか。」「私が王であることは、あなたの言うとおりです。」

この時、主イエスのご自身が王であることを宣言しておられます。このお方こそ、王の王、主の主なるお方なのです。やがて主イエスは再臨され、この地上に、唯一無二の王として、千年間統治されるのです。

神様は、テサロニケのユダヤ人ヤソンを選ばれました。私たちも、このヤソンと同じように、主によって召し出された者なのです。私たちは、主イエスの証人として、それぞれに使命が与えられています。》

◎お知らせ

※6月26日(日)の第四主日礼拝は、通常通り午前10時からです。また午後5時から、鈴木師は板橋泉教会礼拝メッセージの奉仕です。